

# 感性を育む美大の建築教育を展開。 建築士試験の在学中合格を実現

京都美術工芸大学

Kyoto Arts and Crafts University

## デザイン力や表現力を磨く 文理融合型の教育システム

ドイツの造形学校「バウハウス」をご存知だろうか。存在したのは1919年からわずか14年間とその歴史は短いながらも、デザイン・工芸などを含む美術と建築に関する総合的な教育を行った影響力は大きく、モダニズム建築の先駆けとされている。そんなバウハウスと共通する教育に力を注ぐのが、2022年に美術系大学として全国初の「建築学部」を開設した京都美術工芸大学である。2023年には芸術学部との2学部体制に移行し、学部の垣根を越えた学びを推し進めている。

背景にあるのは、「建築はサイエンスであり、アートでもある」との思いだ。AIが発達し、高度情報化の波が押し寄せる今、建設業界では、創造性にあふれた建築士が求められている。だからこそ、同大学は、工学の二分野としてではなく、工学的な建築の知識に加え、発想力やデザイン力も備えた人材の育成に力を入れている。

そして、豊かな感性や発想力を身につけるために軸足を置くのが建築と芸術の総合的な教育である。特に、自身のアイデアを具現化する建築スケッチや模型制作、CADやBIMを活用した最先端のコンピュータスキルの習得に力を注いでおり、次世代の建築士として必要となる多彩な表現力の研鑽に取り組んでいる。さらに、他者に伝える提案力を鍛える機会を豊富に設けるなど、文系・理系の枠にとらわれない独自の教育を展開している。

## 伝統と先進性を備えた 京都が学びのフィールド

建築学部建築学科は、インテリアから都市計画までを幅広く扱う「建築デザイン」、歴史的建造物や町並みの保存・活用を学ぶ「伝統建築」、まちづくりやリノベーションを探索「融合」の3領域からなる。これらの領域を深めるうえで、京都で学ぶメリットは極めて大きい。

同大学は3領域を横断的に学ぶ教育システムを確立。日本一の歴史文化都市・京都を舞台に、立地を生かしたフィールドワークや地域と連携したプロジェクトなど、大学での学びを実践する教育・研究にも幅広く取り組んでおり、新たな建築の創造につながる知識や技術、発想力を身につけることを目的としている。

### Wスクールシステムで資格取得をバックアップ 京都建築大学校(KASD)

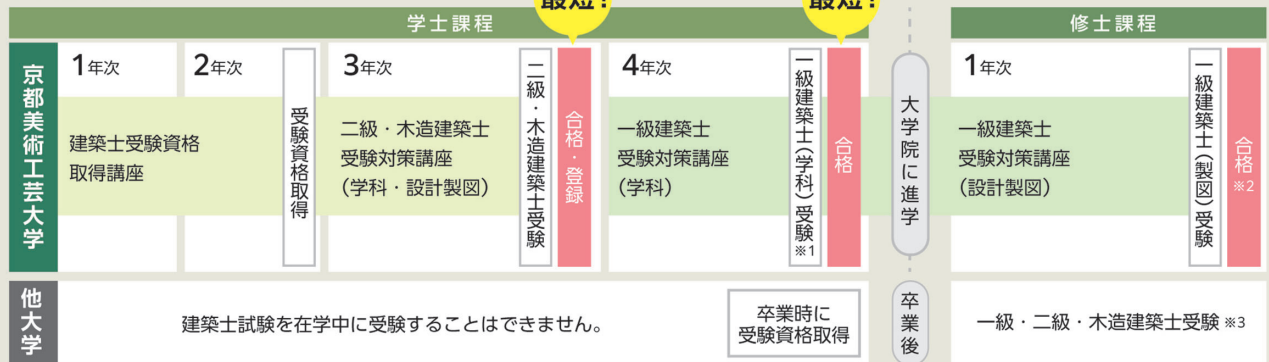
京都美術工芸大学で建築士試験の在学中合格を目指す学生が学ぶ(大学内で受講)のが、同じ二本松学院グループの「京都建築大学校(KASD)」である。在学中に建築士(一級・二級・木造)やインテリアプランナー資格などを取得し、社会で即戦力として活躍できる人材を長年輩出しており、2023年度の建築士(二級・木造)在学中合格者数は学科試験558名、製図試験492名と全国トップクラスを誇る。一級建築士についても在学中合格者6名(最短3年次合格を含む)を輩出。合格者の学校別全国ランキングでは、全国トップレベルに位置づけられている。さらに、4年修学者は大学卒業資格(学士)に加え、高度専門士が取得でき、大学院に進学できることも特色の一つ。最終学歴は大卒以上として、有名企業への就職実績も豊富である。



京都美術工芸大学に、建設業界や教育関係者から大きな注目が集まっている。その理由は、工学としてだけでなく、アートとしてもとらえた建築学と、建築士資格の早期取得を両輪とした独自の教育システムにある。

取材・文/大廣 涼

## 資格取得までの流れ



※1.2020年の建築士法改正により、「二級建築士」取得者は直ちに「一級建築士」試験が受験可能になりました。 ※2.大学院修了後、2年の実務経験を経て、最短での一級建築士免許登録が可能です。 ※3.就業後の資格取得は困難で、現在の合格者平均年齢は二級建築士27歳、一級建築士30歳です。【(公財)建築技術教育普及センターの発表より(2023年実績)】

2023年度  
在学中合格者数

一級建築士(学科)  
3名

二級建築士  
61名

木造建築士  
70名

インテリアプランナー  
11名

※インテリアプランナーは2022年度の合格実績です。

3年次に「二級建築士合格」へ

WSスクールシステムを導入  
建築士資格の早期取得を実現する教育システムも柱の一つだ。建築士資格は建物の設計や工事監理を行うために欠かせない業務独占国家資格で、「二級建築士」「二級建築士」「木造建築士」があり、資格に応じて設計できる建物の用途、規模、構造が定められている。

とはいえ、取得のハードルは高い。建築士試験の受験資格が得られるのは大学や専門学校卒業時がほとんど。建設業界で働きながら資格スクールに通い、30歳前後で合格を目指すのが一般的なルートだ。ただ、仕事との両立は簡単ではなく、スクール費用もかかる。加えて、一級建築士の合格率はわずか1割ほどと難関資格の一つで、時間や経済的な負担からあきらめる人が少なくない。

対して、京都美術工芸大学は在学中の二級建築士合格を目標に掲げる。それを可能にするのが、グループ校の京都建築大学校(KASD)と連携した同大学だけのWSスクールシステムだ。大学の学びと並行して学内で資格講座を受講でき、2年次修了時に受験資格が取得できる。3年次には独自の受験対策講座を開講し、最短(20歳)合格を目指す

WSスクールシステムを導入  
3年次に「二級建築士合格」へ

### Information

## 京都美術工芸大学



2012年開学。2015年、在学中初の二級建築士合格者が誕生。2017年、京都市からの誘致を受け、京都東山キャンパスに移転。2022年に美術大学で全国初の建築学部を開設した。

【開設学部・学科】

●建築学部 建築学科 ●芸術学部 デザイン・工芸学科

【グループ校】

京都建築大学校、京都伝統工芸大学校

●DATA

〒605-0991 京都府京都市東山区川端通七条上ル

TEL 0120-33-3372 (入試・広報課)

URL <https://www.kyobi.ac.jp/>

2023年度には二級建築士に61名、木造建築士に70名が在学中に合格。二級建築士も3名が学科試

建築士合格者数も増加傾向  
在学生61名が二級に合格

ことができる。さらに、受講者は受験資格取得講座と対策講座の授業料全額を給付する奨励金(返還不要)が受けられ、追加費用なしで挑戦できる。4年次には二級建築士の学科試験対策講座を開講し、最短合格も可能。同大学大学院建築学研究所(修士課程)と連続性のあるカリキュラムも整え、6年間で二級建築士の総合合格も目指せる環境だ。

験を突破した。インテリアプランナーにも、4年制大学では唯一の学生合格者(11名※2022年度実績)を輩出している。このように、多くの学生が確かな資格を手に社会へと踏み出しており、高い就職実績も誇る。建築学科の2023年3月卒業生の就職率は99.3%(就職者142名)で、大手ゼネコンや住宅メーカーなどで活躍している。

ちなみに、二級建築士は資格取得者の約7割が50代以上で、若手建築士育成は業界全体の課題だ。そんなニーズに応えるのも同大学のミッション。特色ある教育とWSスクールシステムによる資格取得を両輪とした挑戦をこれからも加速していく。